



株式会社竹屋旅館様

●事業内容：ホテル業全般 ●従業員数：35名

事務所に貼ってある「自分達が目指す共通の夢」から逆算して 今月の目標を考える。自発的な社員に変わりました。

静岡市清水区駅前で「ホテルクエスト清水」を運営されている竹屋旅館様。ホテルの発展と共に地域の活性化を目指し、食を中心とした独自の取組みが話題の同社でチームドリームマップ研修を開催。代表取締役社長の竹内佑騎さんにお話を伺いました。

チームで描くドリームマップとは・・・

チーム（または会社）で一枚のビジョン（目標）を描きます。ビジョンが社員に浸透し、組織の発展に直結します。

◆ 参加したことで、何を得たと思いますか？

「目標」ではなく「夢」を描くときのワクワクした気持ちや高揚感を、参加した全員が共有できたこと。私たちは今まで、過去からの延長線上の「目標」しか描いてきませんでした。それはいつも、手の届くところにある、「ちょっと無理した先にある未来」でした。しかし、今回のドリームマップを描いた時、受講前の自分達では考えられないような未来がそこにありました。「見ているだけでワクワクする未来」です。直感的にそう感じられるものこそが、夢のチカラなのだと思えました。



代表取締役社長
竹内佑騎さん

■ チームドリームマップ研修概要

日程：1日（6時間）

参加者：3名×2チーム

宿泊部門(支配人・主任・フロント)

飲食部門(社長・シェフ・サービス係)

【プログラム内容】

1. ドリームマップとは？
2. チームの強み分析（様々な視点・視野を持ち寄る）
3. チームのゴールイメージ（ゴールの共有・見える化）
4. ドリームマップ下書き（各自が役割認識を持つ）
5. ドリームマップづくり（ゴールの明確化・共有）
6. 行動計画（実行&改善のサイクル）
7. ドリームマップ発表（当事者意識をもつ）

◆ ドリームマップを創って行動や気持ちにどんな変化がありましたか？

これまでの「経営者が勝手につくった目標」ではなく「自分達が目指す共通の夢」を描いたこと、また、参加していない人にドリームマップのことを自分の口で説明することによって、参加メンバーはその実現を真剣に考えるようになりました。今月の目標を考える時にも、事務所に貼ってあるドリームマップを眺めながら書いている姿を見かけました。夢から逆算した今を考えるように変わってきたようです。

◆ 次回はどんなタイミングでドリームマップを導入してみたいですか？

会社に従業員の家族を招いて、それぞれの家族でドリームマップを創ってもらいたいです。家族という単位の中で「仕事」とはどんな風に位置づけられているのか、経営者として非常に興味がありますし、それと会社の夢を照らし合わせて作っていけたら最高だと思います。



竹屋旅館様のドリームマップで描かれた「夢」

● 2018年4月を目指して描いた夢

「わざわざいきたくなるホテル」

私たちのつくった食事を食べるに、私たちスタッフに会いに、私たちと共に働きたいという仲間が、地元だけでなく県外・海外からもきてくださるような、そんなホテル

● マイルストーン（2018年までに）

【新商品・新サービス】 地元の生産者や研究機関と連携し、静岡ならではの健康美食レシピが作り上げられ、旅行代理店の観光ツアーの目玉コンテンツに組み込まれる。

【理想の職場】 当社のレシピを学びたいと、料理人が集まってくる/2店舗目の運営施設を、静岡県内でオープン頑張ってくれたスタッフ全員で、アマルフィに研修旅行に行く。

【お客様貢献】 美食の証「ミシュラン」で星を頂く

【社会貢献】 清水の街は観光客でにぎわい、かつての旺盛を取り戻す

<目標を描く4つの視点>

